

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成24年12月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 期 待

～WHO-FIC年次会議に出席して～

大井 利夫

上都賀総合病院 名誉院長

日病・診療情報管理士教育委員会 特別委員

日本診療情報管理学会 理事長

WHO-FICの2012年ネットワーク会議は、2012年10月13日から19日まで1週間にわたりブラジルの首都ブラジリアにて開催されました。約30カ国から300人近い人々が集まり、日本の研究協力センターからも12名が参加しています。今回は、そこでの印象を含めて感じたことを記したいと思います。

会議の中心議題はもちろんICDの改正・改訂にありますが、今年は特にICDとともにWHO-FICの中心分類をなすICFやICHIについても熱心な議論が展開されました。また南米やアフリカなどの発展途上国におけるICDの普及状況や医療情報の活用、ITを用いた学習方法についても紹介されています。

診療情報管理士を目指して修学中の皆さんにとって関心の深いICDの改訂も、7桁への移行やX章の設置、翻訳プラットフォームやβ版のレビュー、フィールドテストの報告などもあり、着実に2015年のICD-11改訂に近づいてきているようです。さらに従来のICD改訂作業主体の報告から、ICFユーザーガイドやICHIα版の提案などWHO-FICの活動が多方面に広がってきている印象を強く感じました。新しい情報にも注意していただき。

今年はいずれの会議場もほぼ満席で、特に若い世代が熱心に議論に参加していることが目立ちました。開催国ブラジルのポルトガル語と英語との同時通訳はありましたが、中国、アフリカ、韓国や南米諸国などの非英語圏の人々も堂々と英語で発言しています。英語に弱い私にはうらやましく感じましたが、やがて日本からもICDやICFに精通し、しかも英語で自分の意見を確実に主張できる若い人たちが、もっと多く育ってきて欲しいと思わずにはいられませんでした。

診療情報を正確にコーディングして臨床の現場に活用し、さらにデータベース化して統計手法を用いた情報を知識や智恵に昇華していく診療情報学を学んでいる皆さんが、日頃の勉強とともに国際的にも堂々と発言できるように関連する語学力を高めていくことにも大きな期待を寄せたいと思うブラジルでの毎日でした。皆さんの一層の頑張りに明るい未来を夢見たいと願っています。

